

入鹿小だより

～わくわく登校・ニコニコ下校～

熊野市立入鹿小学校
校長 樋口 佳洋
平成 30 年 7 月 13 日
第 8 号

去年つくったハザードマップだけと

去年のちょうどこの時期、3・4年生が大栗須地区のハザードマップ（危険な個所を記した地図）を作ったことはこの学校だよりでも紹介しました。去年の冬から紀和診療所に掲示させていただいてありましたので、ご覧になった方もみえるかと思います。そのハザードマップが学校へ返ってきました。それを見て私はビックリしました。というのも、先日の大阪で起こった地震によるブロック塀の倒壊を受け、教育委員会からの指示により通学路の危険箇所チェックを行ったのですが、そこで報告した個所と、去年子どもたちが作ったハザードマップとがほぼ一致していました。いや、むしろ子どもたちが作ったハザードマップの方がブロック塀や石垣のみならずガードレールや電柱まで入っており、より詳しくかったです。



自分たちがいつも通学に使っている場所でよく知っている所とは言え、とてもよくできているとあらためて感心しました。しばらく多目的ホールに掲示しておきますので、個別懇談会などで学校へお越しの際は、是非ご覧ください。

また、先週は西日本の広い地域で豪雨による被害がたくさん発生しました。あちこちで大雨に関する特別警報や避難指示が出て、今なお大変な思いをされている方がたくさんみえます。入鹿小学校では各種警報や避難に関する情報が出た際は以下のようにしておりますので再度ご確認ください。詳細は本校ホームページの「お知らせ」でご覧いただけます。

紀和町、熊野市、または紀勢・東紀州、三重県南部、和歌山県南部、新宮・東牟婁において

【暴風警報が発令された場合】・・・登校前であれば自宅待機とします。登校後であれば、通学路の安全を確保した上で帰宅させるか、保護者の迎えによる帰宅となります。

【特別警報が発令された場合】・・・暴風警報発令時と同じ扱いとします。

【避難勧告または避難指示が発令された場合】・・・登校前であれば自宅待機としますが、避難するかどうかは各ご家庭で判断ください。登校後であれば、学校は避難所でもあるので児童を学校に留め置きます。 (H29.9 設定 一部を抜粋)

日本人学校とは

私はブラジルのマナウス日本人学校に派遣されていましたが、そもそも日本人学校とは何なのかを説明します。

日本の企業はどんどん海外に進出しており、平成 28 年度の資料によると約 130 万人の日本人が全世界で活躍しています。中には家族と一緒に赴任されている方もいて、その子どもの教育のために、日本の小学校、中学校における教育と同等の教育を行うことを目的とする全日制の教育施設が日本人学校です。平成 27 年現在、世界 50 力国・1 地域に 89 校が設置されています。一般に現地の日本人会や大使館・総領事館等が主体となって設立され、その運営は日本人会等や進出企業の代表者、保護者の代表などからなる学校運営委員会によって行われています。つまり、日本人学校は私立の学校なのです。したがって授業料も必要です（マナウス日本人学校は当時月額 4 万円程だったと記憶しています）し、安全上の理由で徒歩通学は認められないので、自家用車による送迎やスクールバス通学となり、バスであればバス代も必要です。派遣教員は各都道府県の公立小中学校から募集し、都道府県及び文部科学省が選考・派遣します。派遣中は公用パスポートが交付されます。一般のパスポートが赤の表紙なのに対し、公用は緑色の表紙なのです。この先二度と手にすることがないかもしれないものなので、今でも大切にとってあります。

学校の規模は 1000 人を超える大規模校もあれば、入鹿小学校のように複式授業が行われている小規模校もあればとさまざまですが、多くの学校で小学校と中学校が併設されています。マナウスは 40 人ほどの小規模校ですから小中併設で複式学級もあり、小学部でも教科担任制（教科によって担当の先生が変わる）をとっていました。

学校で教えることは日本と全く同じで、日本から送られた教科書を使います。ちがうのは、外国語教育の中で英語の他、ほとんどの学校で現地の言葉の授業（ブラジルではポルトガル語）があることや、総合的な学習の中で、「国際理解」として現地の文化を学んだり、現地の学校と交流したりと国際的な活動を多く取り入れていることでしょうか。現地校の生徒にポルトガル語をまじえながら折り紙を教えていたことがとても印象に残っています。このように交流の中では日本の文化を現地の人に紹介することもあるわけですから、日本にいるとき以上に日本のことを知っていなければなりません。国際理解の前に日本理解が必要なのです。

もうひとつちがうことは、派遣教員が自分の子どもに授業を教えることもあることです。私の娘は小学 1・2 年のときに在籍しましたが、算数や図工を教えました。自分の親が学校にいるということは、実は子どもにとっても大変なことなのです。学校では私のことを「お父さん」と呼べないのです。何か困ったことがあったときなどに、学校では「樋口先生」と呼ばなければならないことは、小学校へ入学してきたばかりの娘にとっては大変なことだったでしょう。